

策定にあたって

第1章 総合計画の意義と役割

1 策定の趣旨

総合計画は、市政運営の根幹となるまちづくりの目標を明らかにし、これを達成するための市政全般に係る施策の基本的な方向を体系的に明らかにするものです。

本市では、1982年（昭和57年）に基本構想を策定して以降、以下の変遷を経て、2011年（平成23年）に策定した「奈良市第4次総合計画」を基に、社会経済情勢への変化に対応しながら施策を推進してきました。

この間、2011年（平成23年）の地方自治法の改正により「地域における総合的で計画的な行政の運営を図るための基本構想」の策定義務が廃止され、総合計画の策定は、地方自治体の自主的な判断に委ねられることとなりました。

また、全国的な少子高齢化や人口減少の進行、地球規模での環境問題の深刻化や大規模自然災害の発生、IT技術の革新、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行など、本市を取り巻く情勢が大きく変化してきています。

総合計画の策定義務は無くなったものの、このような状況においては、まちづくりの目標を市民と行政が共有することが今まで以上に重要であることから、第4次総合計画が2021年度（令和3年度）に目標年度¹を迎えるにあたり、これから約10年間で目指すまちの姿を示す「奈良市第5次総合計画」を策定します。

【総合計画の変遷】

1982年	奈良市基本構想 奈良市基本計画
1984年	「未来にのびゆく国際文化観光都市 —伝統と調和のとれた住みよいまちづくり」
1991年	奈良市新総合計画 「歴史と自然と生活文化が織りなす、創造と交流の世界都市—奈良」
2001年	奈良市第3次総合計画 「世界遺産に学び、ともに歩むまち—なら」
2011年	奈良市第4次総合計画 「市民が育む世界の古都奈良～豊かな自然と活力あふれるまち～」
2022年	奈良市第5次総合計画 「『わたし』からはじめる『わたしたち』のまち 奈良」

¹ 第5次総合計画の策定にあたり、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた内容とするため、計画開始年度を1年延期することとし、第4次総合計画の目標年度を2020年度（令和2年度）から2021年度（令和3年度）に変更。

2 構成と期間

第5次総合計画は、未来ビジョンと推進方針で構成しています。

(1) 未来ビジョン

未来ビジョンは、2031年度（令和13年度）を目標年度として、奈良市の都市の将来像である「2031年のまちの姿」とその実現に向けた具体的なまちの方向性を定めています。

(2) 推進方針

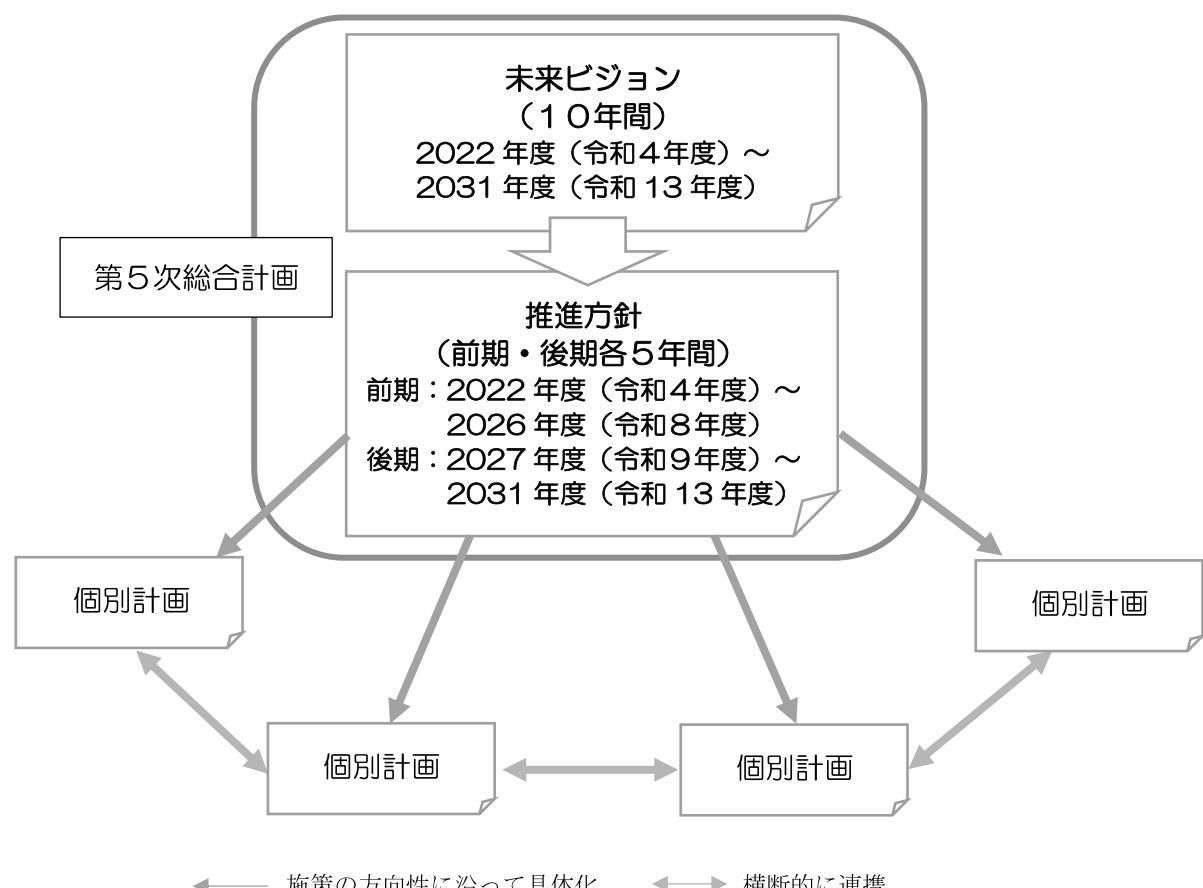
推進方針は、未来ビジョンの実現に向けて取り組む施策の方向性を体系的に明らかにしています。計画期間は、2022年度（令和4年度）から2026年度（令和8年度）を前期、2027年度（令和9年度）から2031年度（令和13年度）を後期とします。

3 分野別の個別計画との関係

本市では目的に応じて特定の分野に関する様々な個別計画を策定しています。法令上の位置付けや対象分野、計画期間はそれぞれ異なりますが、分野ごとの行政課題に対応し、より具体的な取組等を明らかにするものであり、総合計画と整合を図り、総合計画に示す考え方を具体化しています。

市政全般に係る施策の基本的な方向を示す総合計画と個別計画が同じ目標に向かって、互いに連携しながら、市全体として施策を推進していく体制を整えます。

【第5次総合計画の構成及び個別計画との関係】



第2章 奈良市の概要

1 自然条件

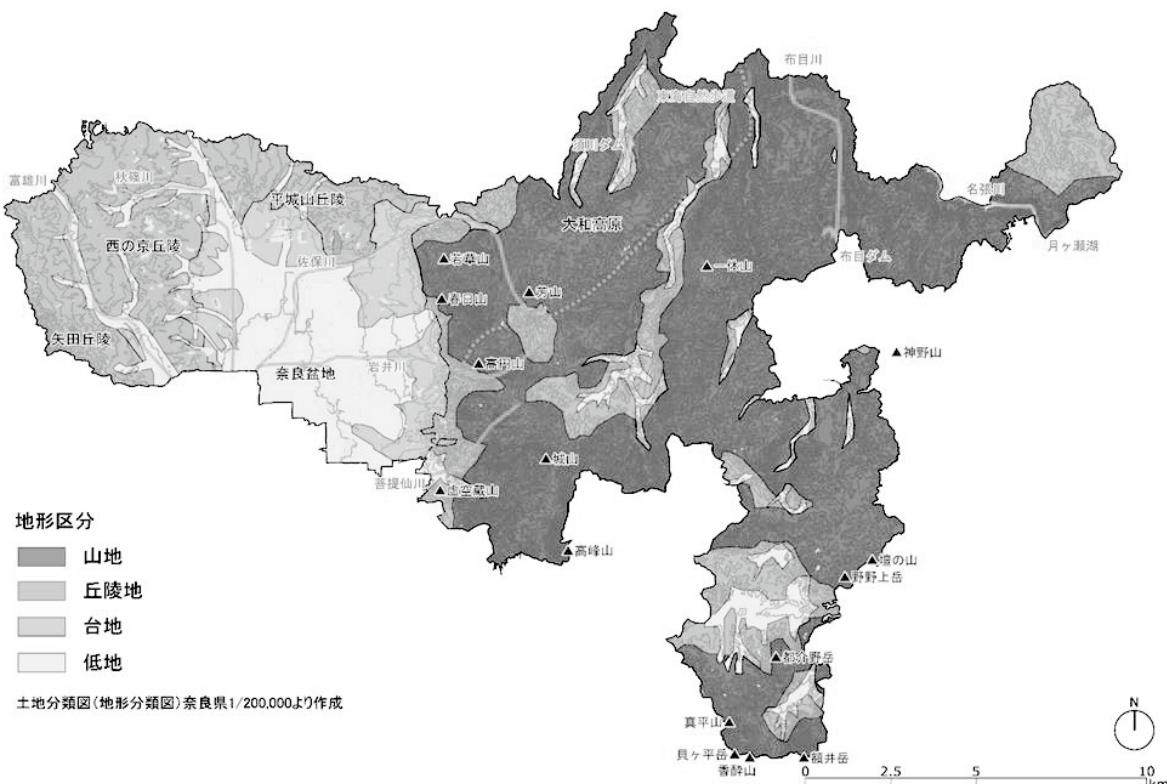
○位置

本市は、奈良県の北部に位置し、西は生駒市、南は天理市、大和郡山市、桜井市、東は宇陀市、山辺郡山添村、三重県伊賀市、北は京都府木津川市、相楽郡精華町・笠置町・南山城村と接しています。大阪市からは約 25km、京都市からは約 35km の距離にあり、いずれも電車で 1 時間程度に位置しています。面積は 276.94 km²で、奈良県の総面積の約 7.5%を占めており、東西 33.51 km、南北 22.22 km で東西に長い形をしています。

○地勢

本市は、春日山を境に地勢が異なっており、春日山以東の地区は、標高 200~600m のなどらかな山地状の地形が広がる大和高原の北部に位置し、布目川、名張川などが山あいを北に向かって流下し、木津川に合流します。南端には、市内最高地であり、大和高原第一の高山である貝ヶ平山（標高 822m）が存在しています。

春日山以西の地区は、奈良盆地の北端に位置する平坦部で、佐保川、秋篠川、岩井川などが盆地の南部に向かって流下し、大和川に合流します。地区西部には西ノ京丘陵と矢田丘陵の一部が伸びていて、両丘陵の間を富雄川が南流し、大和川に合流しています。地区北部は、いわゆる平城山丘陵で京都府南端の丘陵地に接しています。



○気候

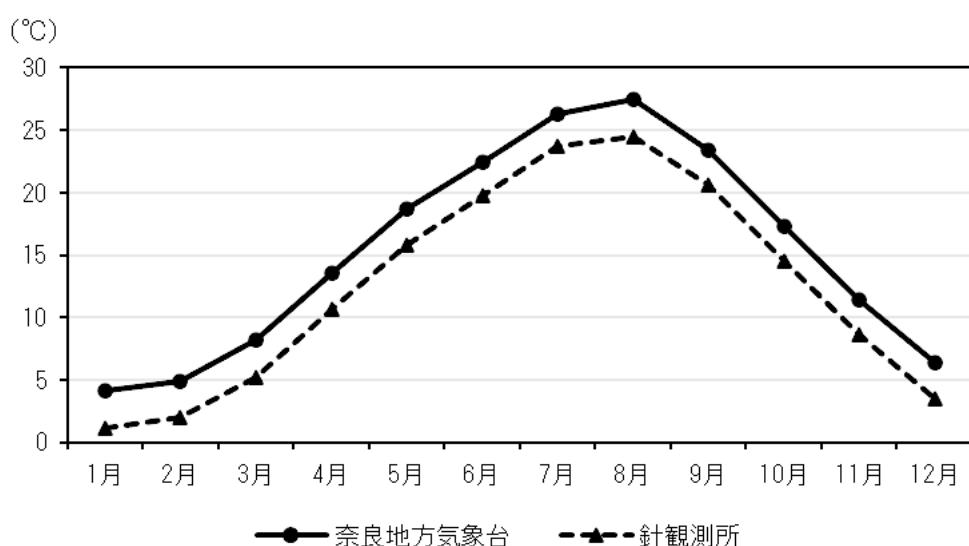
本市は、山岳によって海岸から隔てられているため、奈良盆地地区・大和高原地区とともに内陸性の気候を示し、年間を通じて寒暖の差が大きいことが特徴です。

月平均気温分布をみると、夏は高温で冬は低温と年較差は大きく、大和高原地区は奈良盆地地区に比べ年間を通して約3°C低くなっています。最低気温は、奈良地方気象台（奈良盆地地区）では1977年（昭和52年）2月に-7.8°C、針観測所（大和高原地区）では1984年（昭和59年）2月に-12.2°C、最高気温は、1994年（平成6年）8月に奈良地方気象台で39.3°C、針観測所で2020年（令和2年）8月に36.0°Cを記録しています。

なお、奈良地方気象台における年平均気温は、2019年（令和元年）及び2020年（令和2年）に16.3°Cとなり、統計を開始した1953年（昭和28年）以降、最高となっています。2001年（平成13年）は15.1°Cであり、20年間で1.2°C上昇しています。

【気温の月別平均値】

2001年（平成13年）～2020年（令和2年）



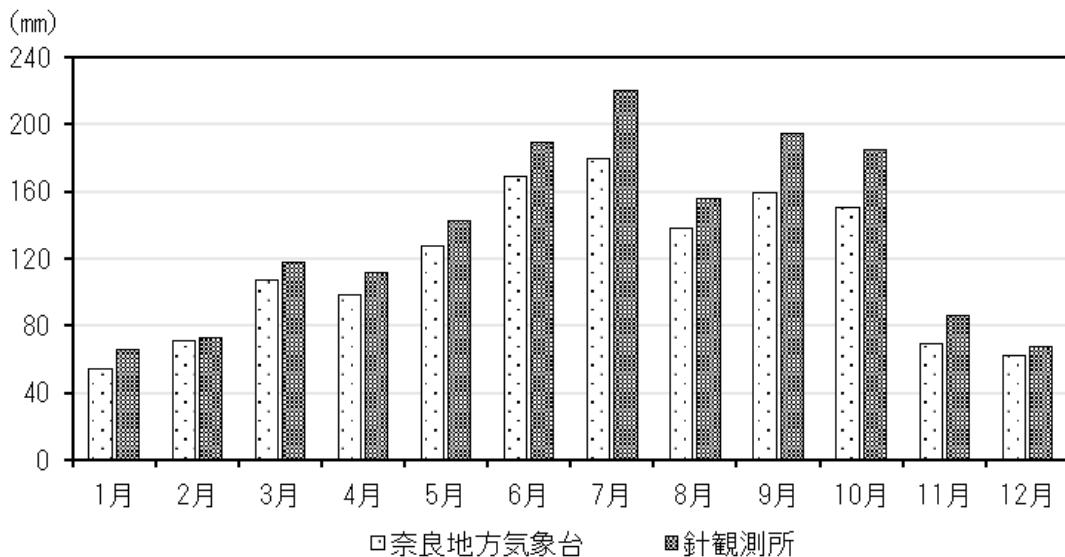
(資料) 気象庁ホームページ

年平均降水量は、2001年（平成13年）から2020年（令和2年）の平均で奈良盆地地区が約1,400mm程度、大和高原地区が約1,600mm程度あまり多いとはいえず、水田かんがい用水の不足を補うため池が多数つくられています。

月平均降水量は、6、7月の梅雨期と9月が多く、大和高原地区は奈良盆地地区に比べ年間を通して降水量が多くなっています。

最大日降水量は、奈良地方気象台（奈良盆地地区）では2017年（平成29年）10月に196.5mm、針観測所（大和高原地区）では1982年（昭和57年）8月に220mmを記録しています。

【降水量の月別平均値】
 2001年（平成13年）～2020年（令和2年）

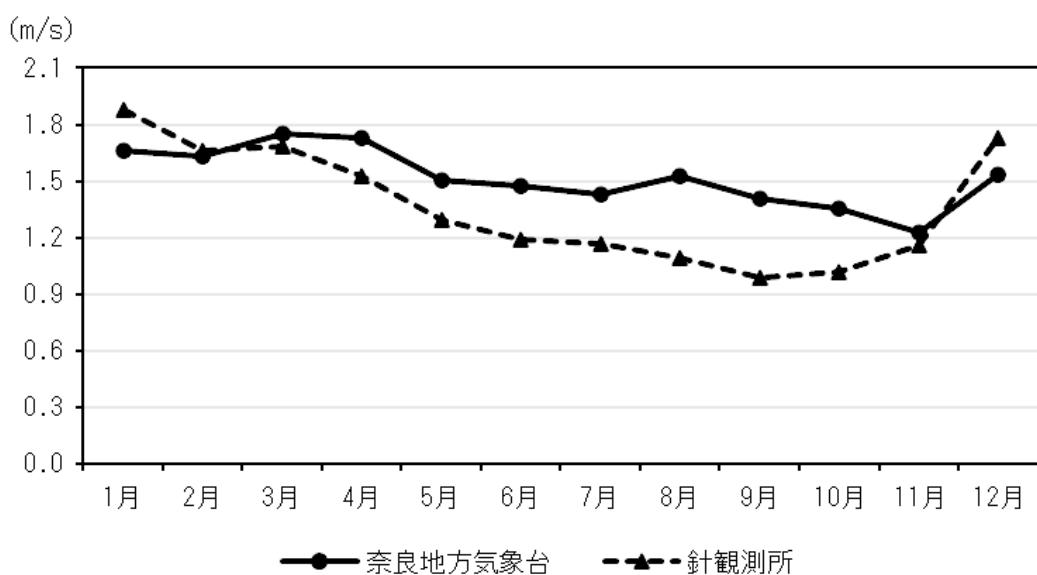


(資料) 気象庁ホームページ

本市における風速は、真冬から春先にかけての期間が最も強く、この期間は大和高原地区の風速が奈良盆地地区を上回ります。それ以外の期間は、奈良盆地地区が大和高原地区を上回っています。

最大瞬間風速は、奈良地方気象台（奈良盆地地区）で1979年（昭和54年）9月に47.2m/s、針観測所（大和高原地区）では2019年（令和元年）10月に23.4 m/sを記録しています。

【風速の月別平均値】
 2001年（平成13年）～2020年（令和2年）



(資料) 気象庁ホームページ

2 奈良の歩みと紡いできた文化

○「奈良」という地名～奈良のはじまり

「ナラ」という地名の由来には諸説あり、『日本書紀』の崇神天皇の条に「那羅山」の名が見られるほか、一般に古代人の住居に適したなだらかな丘陵地を意味する平地(なるじ)、平(なら)などの「ナラ」とする説や、渡来人の居住地を古代の朝鮮で国を意味する「ナラ」と名付けたことからおこったとする説などもあります。

記紀(『古事記』・『日本書紀』)など古代の文献の記述から、今日の京都府との境に広がる丘陵一帯が、もともとのナラの地だったと推測できます。

「ナラ」には、「奈良」以外にも様々な漢字が当てられ、8世紀以降広く「奈良」が用いられます。『続日本紀』など官用には主に「平城」と記述されました。

○平城京の繁栄～8世紀日本の首都

710年(和銅3年)に都が藤原京から平城京に遷されてから70余年の間、奈良は、古代日本の首都として栄え、国際色豊かな天平文化の華を咲かせました。もちろん平城京への遷都以前も、記紀には奈良を舞台にした記述があり、市内の発掘調査では人々の活動の痕跡を示す多くの遺跡・遺物が見つかっています。しかし、多くの人に親しまれている「古都奈良」のイメージは、唐の制度に学び国の仕組みが整った、この8世紀日本の政治・文化の中心地として脚光を浴びたことによるものといえるでしょう。

○寺社の発展と商工業の成長～平城京から南都へ

都が長岡京へ、そして平安京へと遷されると政治都市であった平城京は荒廃しましたが、平城京に建立された諸大寺はそのまま残ったため、奈良は、寺院及び神社を中心として栄え、平安京に対して、「南都」と呼ばれるようになりました。

東大寺や興福寺が発展するにつれ、寺の仕事に携わる者など、寺のまわりに住む人が増えて「郷」(ごう)と呼ばれるまちができ、商工業の発展に伴いさらに新しい郷が生まれ、13世紀には平城京の外京と呼ばれた区域を中心に、今日の奈良町の原形が形づくられました。

室町時代から、奈良の名産として酒、墨、刀剣、団扇、火鉢、人形などが知られていましたが、江戸時代になってめざましい発展を遂げ、「南都隨一」の産業と言われたのが奈良晒です。江戸時代初期の奈良は奈良晒をはじめとする産業の町として活気を呈しました。戦国時代の兵火で焼け落ちていた大仏が復興された江戸時代中頃からは、奈良見物に訪れる人が多くなり、奈良はしだいに観光都市としての性格を強めていきます。

○奈良県の誕生と県都奈良市～近代都市への発展

明治維新の後、1871年(明治4年)の廢藩置県により奈良県が誕生しますが、一時期堺県や大阪府に合併されたため、近代都市化が立ち遅れてしまいました。

1887年(明治20年)奈良県が再設置され、奈良に再び県庁が置かれました。1889年(明治22年)には町制がしかれ、1898年(明治31年)2月1日に市制が施行されます。この前年に古社寺保存法ができ、明治初年の神仏分離などで混乱した奈良の寺社も復興への動き

が本格化します。また奈良公園の拡張や鉄道の整備などが進んだことで、観光客も年々増え、奈良市は政治、文化、交通の中心となる県都として発展しました。

○国際文化観光都市としての発展と宅地開発の進行～経済成長時代の奈良

奈良は第二次世界大戦の大きな戦禍を免れ、幸いにも貴重な自然や文化財を残すことができました。1950年（昭和25年）「奈良国際文化観光都市建設法」が住民投票の結果を受けて成立し、奈良市のもつ文化的、観光的価値を将来に生かした近代都市づくりを進めていくことになりました。また1957年（昭和32年）までに周辺16町村を編入合併し、市域が大きく広がりました。

一方、この頃から近鉄学園前駅周辺において宅地開発が進められ、高度経済成長期に入つてからは、西北部丘陵一帯にも宅地開発が広がり、近畿圏における住宅都市としての機能も併せ持つこととなりました。

○関西文化学術研究都市の地域指定と世界遺産リスト登録～昭和から平成へ

1988年（昭和63年）に策定された「関西文化学術研究都市の建設に関する計画」においては、「平城宮跡地区」と奈良市を含む「平城・相楽地区」が文化学術研究地区に指定されました。

1998年（平成10年）2月に奈良市は市制100周年を迎える、同年12月には「古都奈良の文化財」として東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡の8資産群がユネスコの世界遺産リストに登録されました。

○中核市「奈良市」と平成の合併、広がるネットワーク～21世紀の奈良

2002年（平成14年）4月には中核市に移行し、それまで以上に主体的なまちづくりに取り組むことができるようになりました。また、2005年（平成17年）4月1日に月ヶ瀬村、都祁村を編入合併しました。

2006年（平成18年）3月には、「けいはんな線」が開通したこと、西北部地域と大阪・東大阪沿線エリアとの往来が、2009年（平成21年）3月には「阪神なんば線」が開通したこと、阪神エリアとの往来が容易になり、人・物・情報・文化・産業の交流が一層活発になっています。

また、国内外の様々な都市と、友好・姉妹都市として提携し、互いの資源を生かしながら文化、教育、産業など多方面にわたる交流を推進してきました。1970年（昭和45年）の慶州市（大韓民国）との提携を皮切りに、国外ではトレド市（スペイン）、西安市（中華人民共和国）、ベルサイユ市（フランス）、キャンベラ市（オーストラリア）、揚州市（中華人民共和国）と、国内では郡山市（福島県）、小浜市（福井県）、太宰府市（福岡県）、宇佐市（大分県）、多賀城市（宮城県）と提携を結んでいます。

○未来につなげる「奈良」

本市は、古代日本の都が置かれ、シルクロードを通じて外国の文化が渡來した、歴史的・文化的な意味をもった都市です。1300年前、平城京に花開いた天平文化は、中央アジアから東端の日本に至る雄大な空間と時間、多様な人々の営みと文化交流の結晶でもありました。その遺産は、災害や戦乱で失われても繰り返し復興され現代に引き継がれてきました。

寺社をはじめとする建築物、万葉集などの詩歌、仏像などの彫刻、正倉院宝物に見られる工芸品、地域に残る伝統行事、これらを今日まで伝えてきたということは奈良で暮らす私たちの誇りとなっています。

奈良から日本文化を世界に発信しようとする取組として、1988年（昭和63年）には、なら・シルクロード博覧会、2010年（平成22年）には、平城遷都1300年祭などが開催されました。また、2016年（平成28年）には、「古都奈良から多様性のアジアへ」をテーマに、寧波市（中国）・濟州特別自治道（韓国）とともに「東アジア文化都市」事業を展開しました。これは、交流を通して相互理解と連帯感を高めるとともに、長い歴史の中で育んできた文化の力をもとに、奈良の新たな魅力を創造しようとするものです。

古代より奈良は、世界に門戸が開かれた進取の気風に満ち溢れた国際交流都市として、多様性と包摂性をもち、世界と向き合ってきました。その気風は現在の奈良にも脈々と息づいています。また、自然や歴史、文化の調和が保たれた奈良の風土は、重層的な歴史の中で長い年月をかけて育まってきたものです。世界に誇ることができる奈良の文化的価値は、決して人の手のみでつくられたものではなく、自然とともに培わってきたものです。

本市では、国や県と協力しながら進めてきた平城宮跡の復原整備に代表されるように、奈良のまちを支え続けてきた文化遺産を未来へと引き継ぐために取り組んできました。これからも様々な変遷を経ながらも連綿と受け継がれてきた文化を次代へとつなげるとともに、今日を生きる私たち一人ひとりが主役となり新たな文化を育んでいくことで奈良の新たな価値の創造へとつなげていきます。

3 奈良市の現況

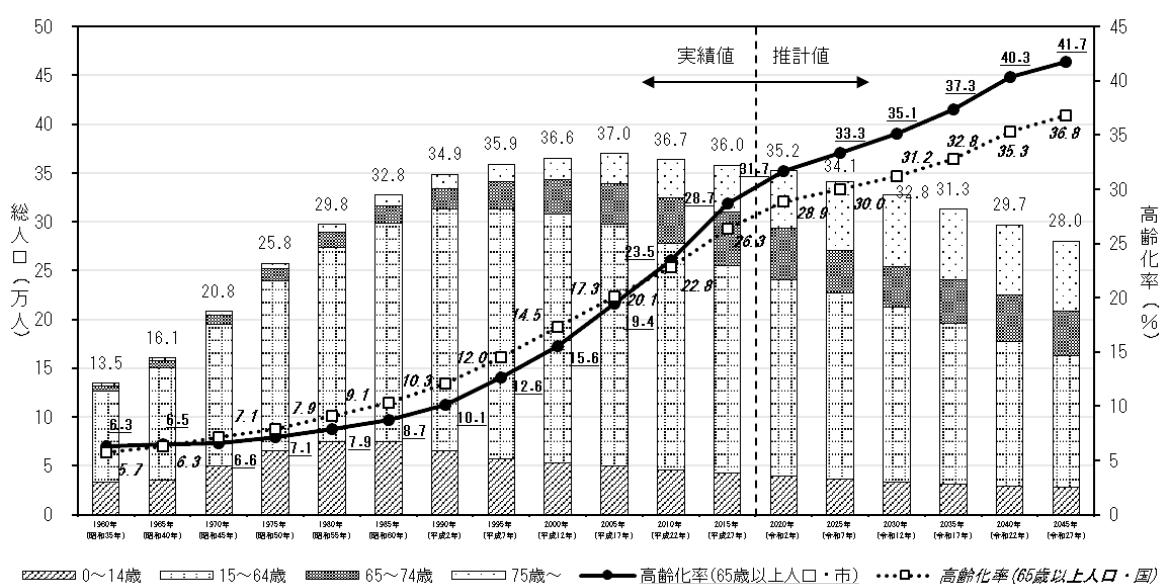
(1) 総人口と人口構造、世帯の状況

① 人口の推移（人口減少、少子高齢化の進行）

本市の人口は2005年（平成17年）をピークに減少に転じており、2040年（令和22年）には30万人を割り込むことが見込まれます。

年齢構成については、0～14歳（年少人口）や15～64歳（生産年齢人口）が今後大きく減少する一方で、65歳以上（高齢人口）は増加し、高齢化率は2040年（令和22年）に40%を上回ることが予測されています。

【総人口の推移】

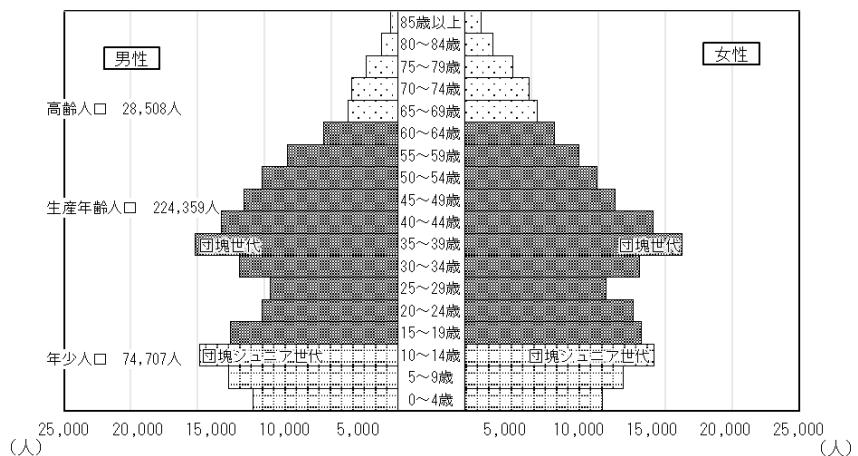


（資料）2015年（平成27年）までは国勢調査。2020年（令和2年）以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月時点推計・出生中位、死亡中位）」

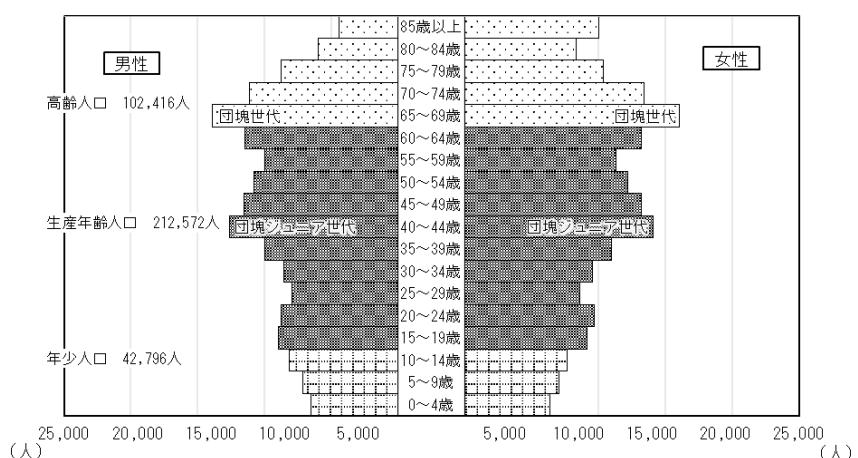
年齢別的人口構成をみると、1985年（昭和60年）は、団塊世代にあたる35～39歳と、団塊ジュニア世代である10～14歳に人口の隆起がある人口構成でした。2015年（平成27年）は団塊世代が65～69歳に到達したことによって、1985年（昭和60年）に比べ高齢人口が隆起している一方で、団塊ジュニア世代の子ども世代が少なく、年少人口の隆起は見られません。2045年（令和27年）には、団塊ジュニア世代も65歳以上になることから、さらに高齢人口の隆起が大きくなる一方で、年少人口はさらに減少し、少子高齢化が一層顕著になると見込まれます。

【年齢別人口の推移】

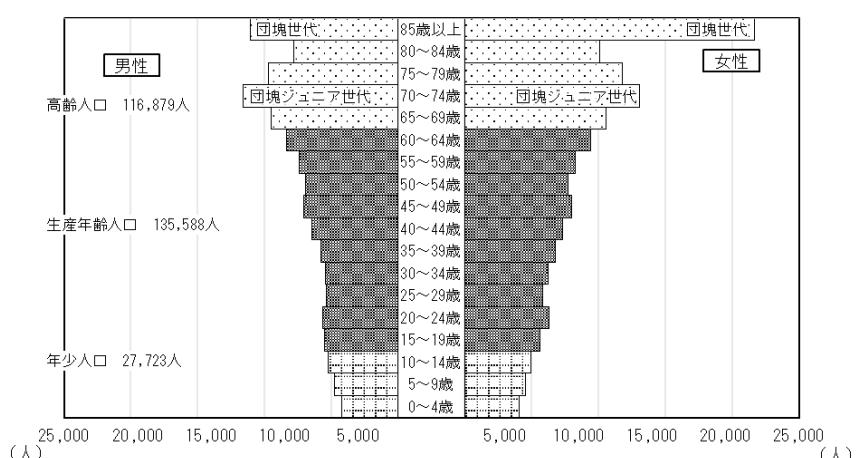
1985年（昭和60年）



2015年（平成27年）



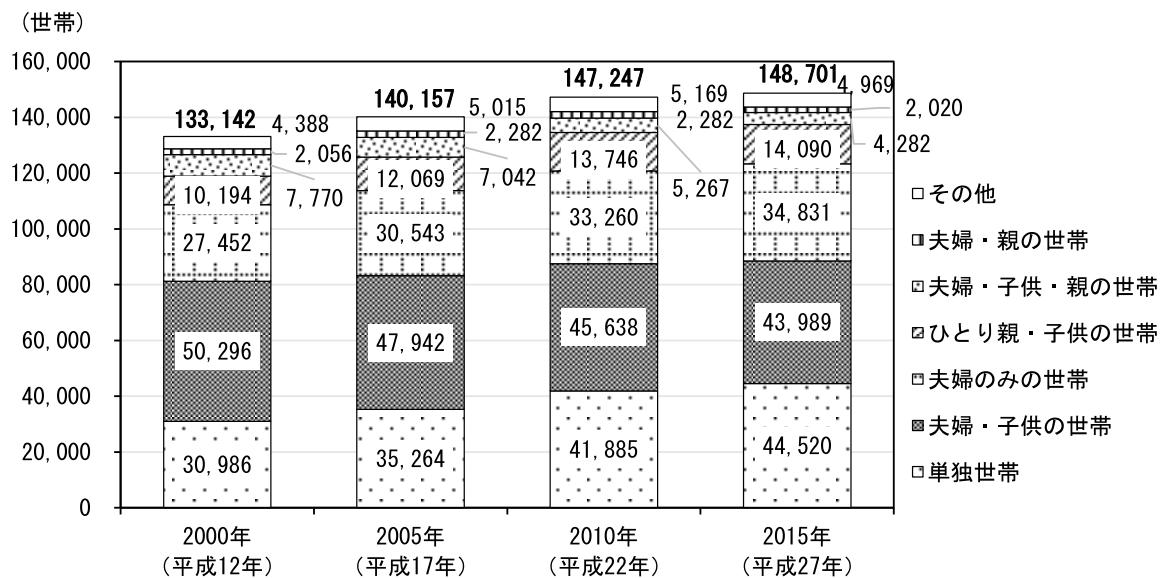
2045年（令和27年）



(資料) 2015年（平成27年）までは国勢調査。2020年（令和2年）以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月時点推計・出生中位、死亡中位）」

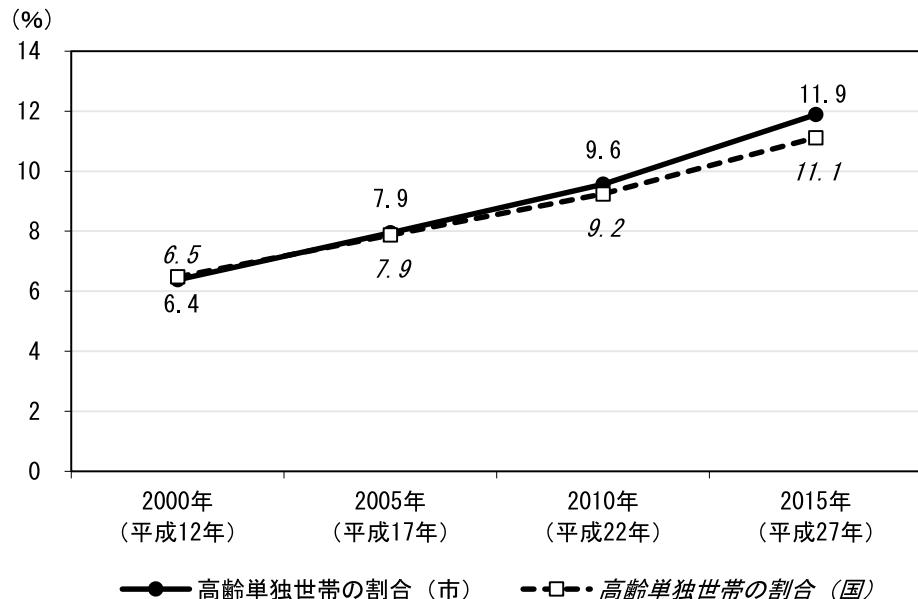
世帯数は増加傾向にあります。家族類型別の内訳をみると、特に増加しているのは単独世帯であり、中でも高齢単独世帯（65歳以上の一人暮らし世帯）の比率は、2000年（平成12年）に比べ大きく上昇しています。

【家族類型別一般世帯数の推移】



(資料) 総務省「国勢調査」

【高齢単独世帯比率の推移】

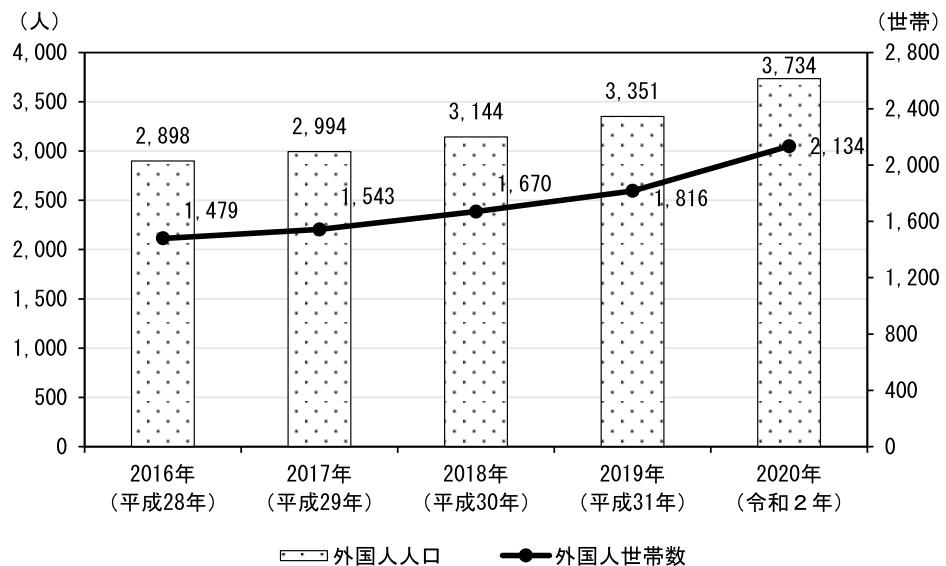


(注) 高齢単身世帯は65歳以上の者一人のみの一般世帯

(資料) 総務省「国勢調査」

総人口が減少している一方で、外国人人口は増加しています。外国人の増加は全国的な傾向であり、本市においても同様の傾向が続くものと見込まれます。

【外国人人口の推移】

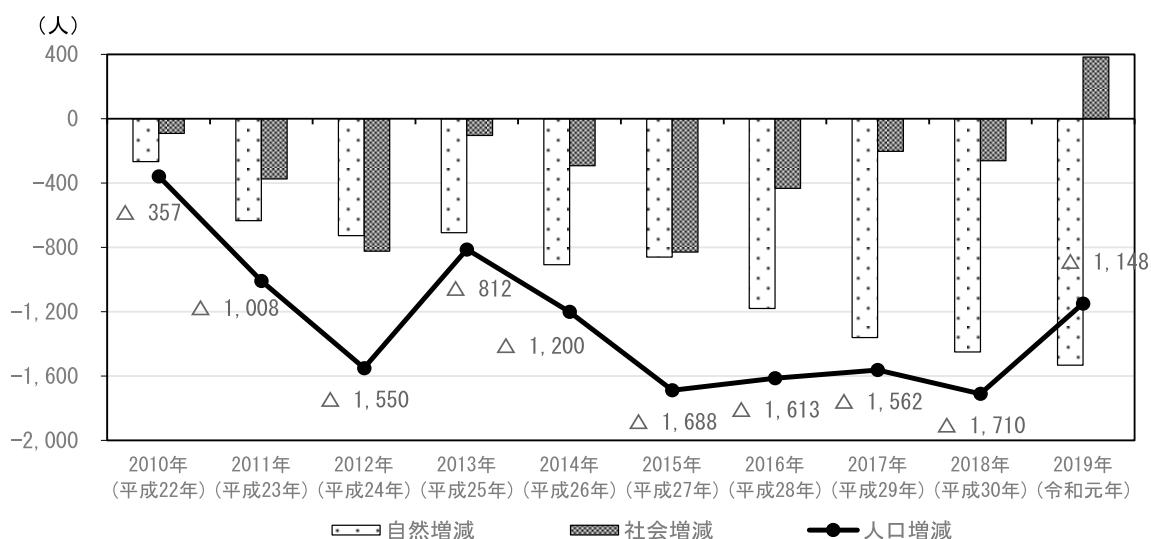


(資料) 奈良市「統計なら」

② 人口動態（出生数の減少、20歳代の転出超過）

人口動態は、自然動態（出生、死亡に伴う人口増減）と社会動態（転入、転出に伴う人口増減）ともに減少が続けていましたが、2019年（令和元年）には社会動態が増加となりました。ただし、自然動態の減少は拡大が続いています。

【自然動態・社会動態の推移】



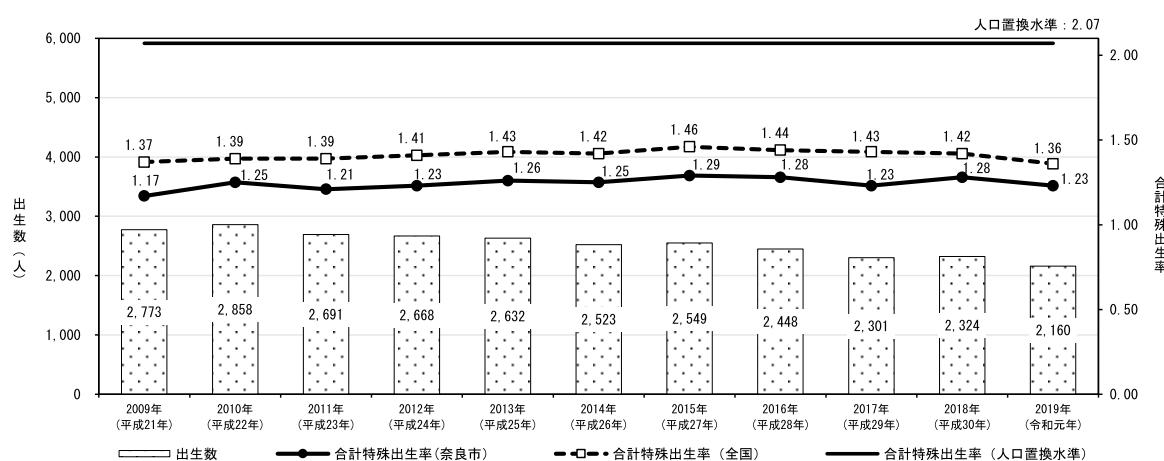
(資料) 奈良市「統計なら」

自然減が拡大する背景には出生数の減少があり、2019年（令和元年）の出生数は2,160人で、10年前の2009年（平成21年）よりも613人減少しています。

一人の女性が生涯に産む子どもの平均数である合計特殊出生率は、2004年（平成16年）以降緩やかな上昇傾向にありました。しかし、2016年（平成28年）以降は、下降と上昇を繰り返しています。

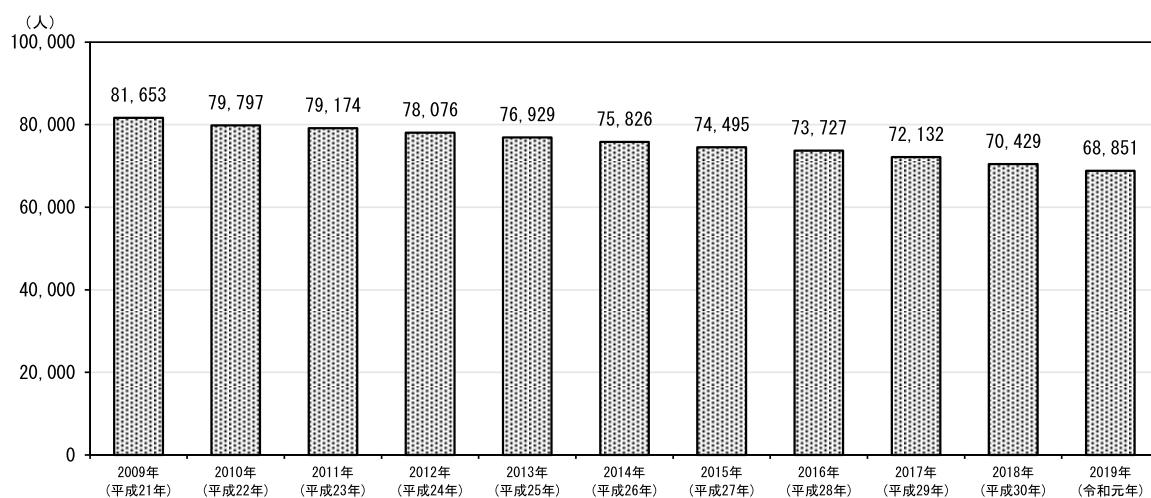
また、合計特殊出生率の算出に当たり、女性の出産可能な年齢とされている15～49歳の女性人口も減少が続いていることに加えて、晩婚化や晩産化、また未婚率の上昇などにより、少子化が加速することが見込まれます。

【出生数・合計特殊出生率の推移】



(資料)奈良市「令和元年奈良市合計特殊出生率について」

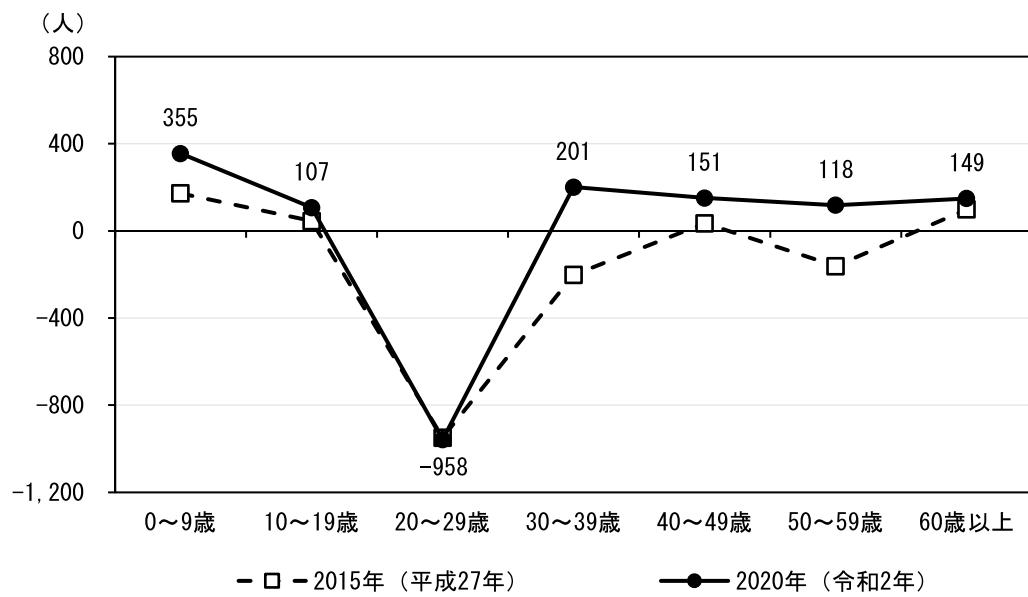
【15～49歳の女性人口の推移】



(資料)奈良市「令和元年奈良市合計特殊出生率について」

年代別の社会増減を2015年（平成27年）と2020年（令和2年）で比較すると、20～29歳ではいずれの年も大幅な社会減となっている一方、30～39歳や50～59歳は社会減から社会増に転じ、さらに30～49歳の子ども世代と思われる0～9歳では、社会増の幅が拡大するという変化が見られます。また、総数は2019年（令和元年）から社会増に転じ、2020年（令和2年）もその傾向は続いています。

【年代別社会増減の時点比較】



(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(2) 地域経済、就業の状況

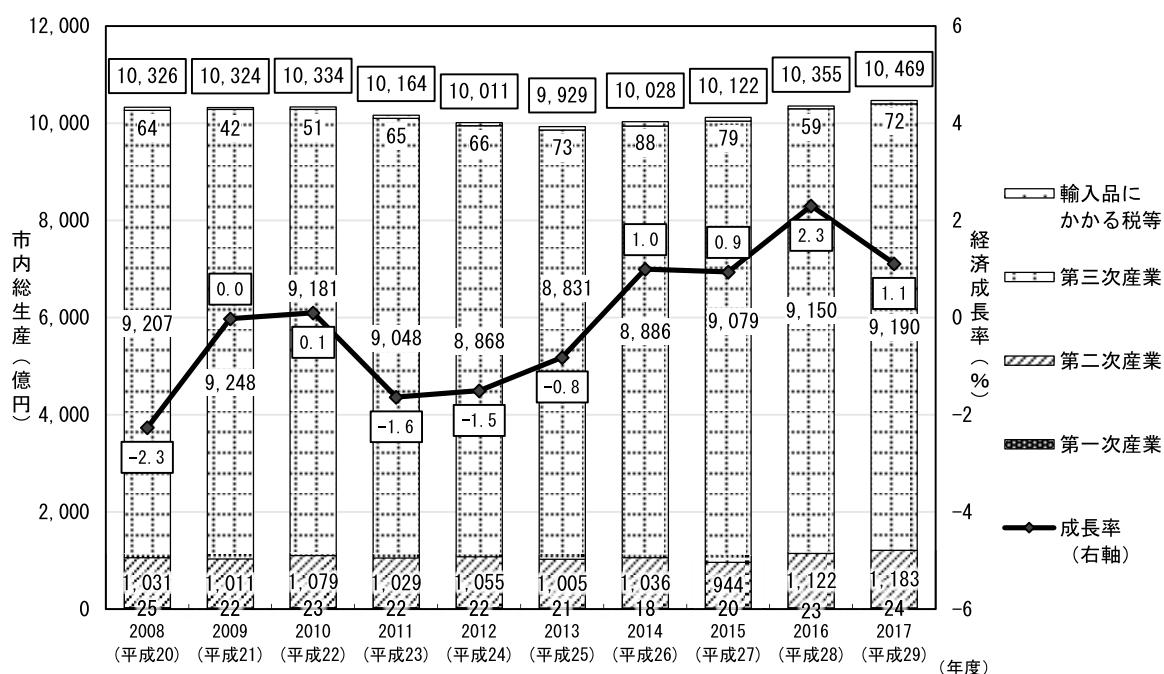
① 市内総生産と産業構造（第三次産業中心の産業構造）

本市の市内総生産は、リーマンショック等による世界的な景気後退の影響もあり、2008年度（平成20年度）以降減少傾向でしたが、2014年度（平成26年度）からは増加しています。

しかしながら2020年（令和2年度）以降は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を大きく受けています。

※第4章「新型コロナウイルス感染症が与えた影響とその対応」(39ページ～) 参照

【市内総生産の推移】

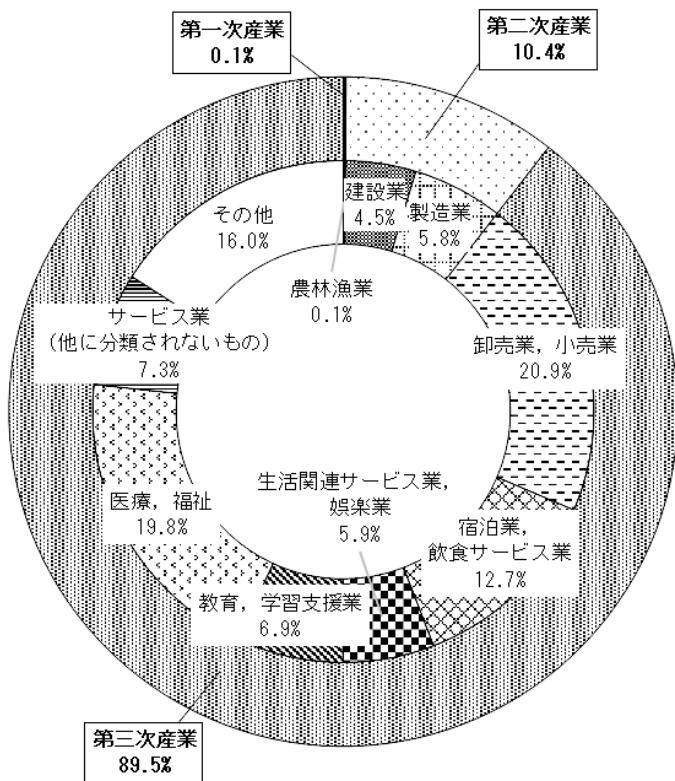


(資料)奈良県「市町村民経済計算」

産業別の従業者数をみると、第一次産業や第二次産業の構成比は小さく、本市では第三次産業中心の構成となっています。

第三次産業の中でも、特に構成比が高い産業は「卸売業・小売業」、「医療・福祉」、「宿泊業・飲食サービス業」です。

【産業別従業者数の構成比（2016年（平成28年））】

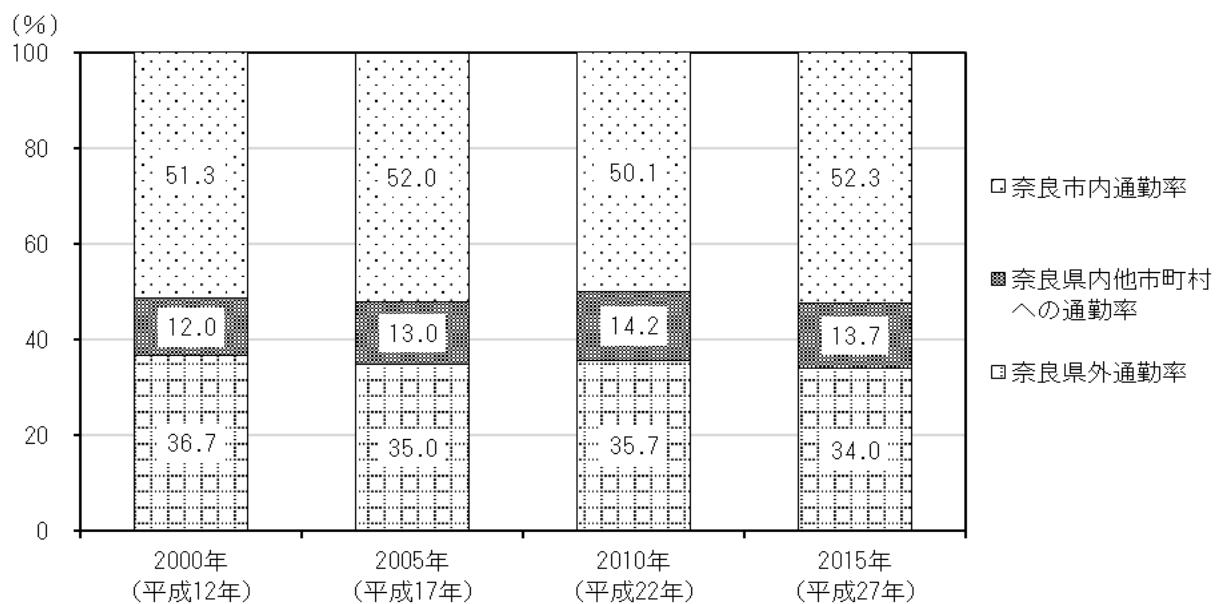


(資料)経済産業省「平成28年経済センサス 活動調査」

② 就業者の状況（女性の労働率の増加、高齢者の労働参加）

本市に居住する就業者のうち、市内で働く人は約半数で、およそ2人に1人が奈良市外、3人に1人が大阪府や京都府等の県外に通勤しています。

【従業地別の就業者割合の推移】

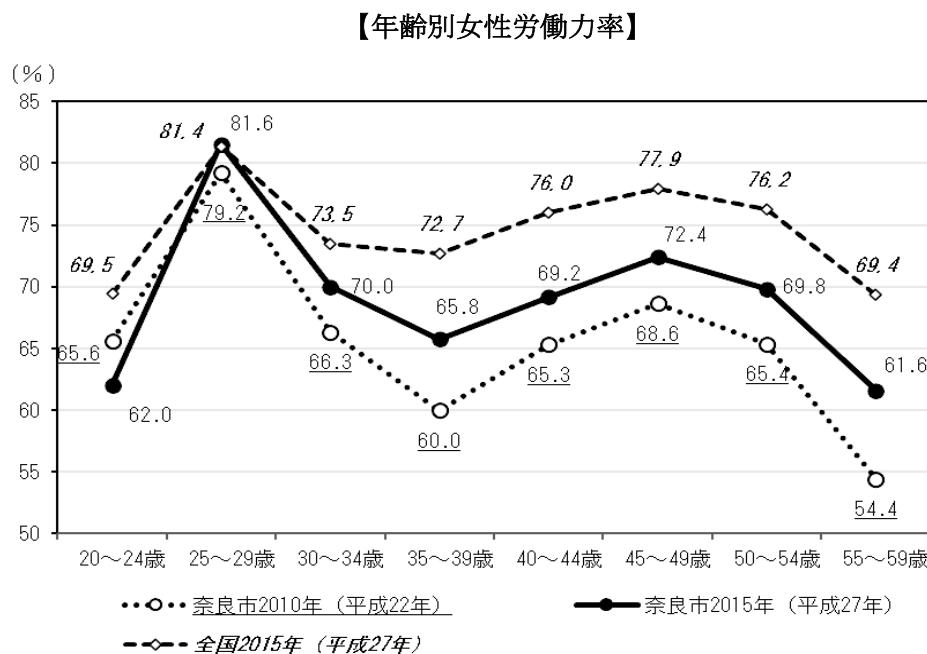


(注)従業地「不詳」、従業先市区町村「不詳」を除く

(資料)総務省「国勢調査」

2015年（平成27年）における女性の労働力率を年齢5歳階級別にみると、全国と同様、出産・子育て世代が谷になる、いわゆるM字カーブを描いています。

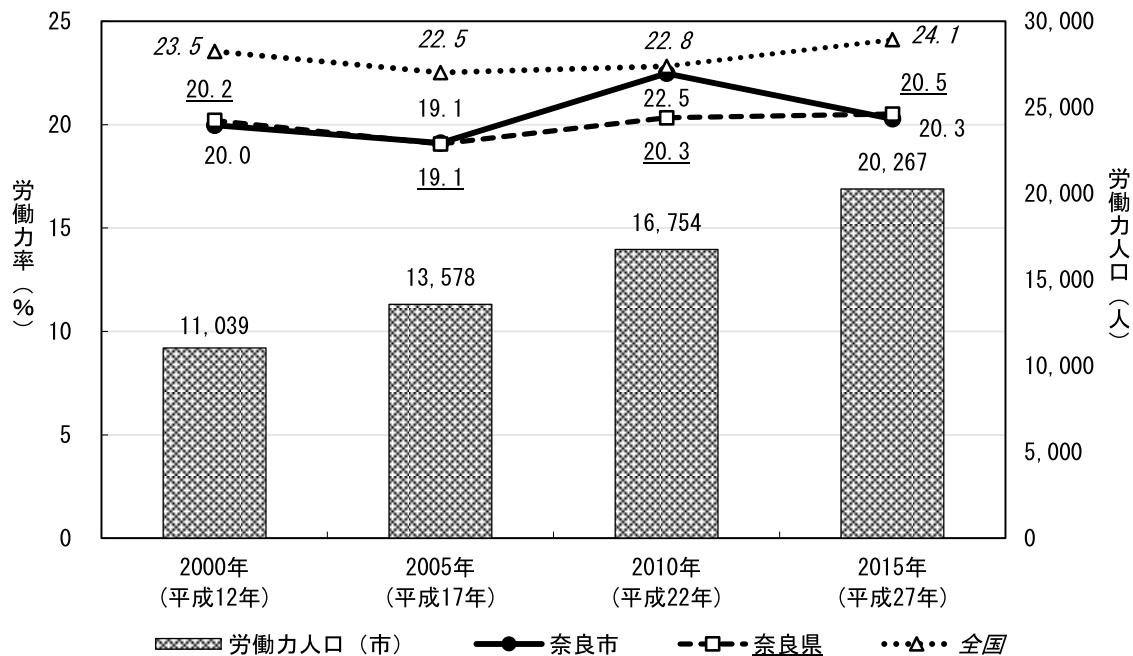
労働力率が最も高い25～29歳では全国の水準と変わらないものの、30～34歳から35～39歳にかけての落ち込みは全国よりも大きく、以降の年齢層でも全国の水準を下回っています。ただし、2010年（平成22年）と2015年（平成27年）で比較すると、20～24歳を除く全ての年齢層で上昇しています。



(資料) 総務省「国勢調査」

高齢者（65歳以上）の労働力率は、全国では22～24%程度で推移しています。本市における高齢者の労働力率は、奈良県と概ね同水準で推移しており、率は大きく変わっていないものの、高齢者人口の増加に伴い、働く高齢者は増加しています。

【高齢者（65歳以上）労働力人口及び労働力率の推移】



(資料) 総務省「国勢調査」

③ 市内観光の状況（外国人観光客の増加）

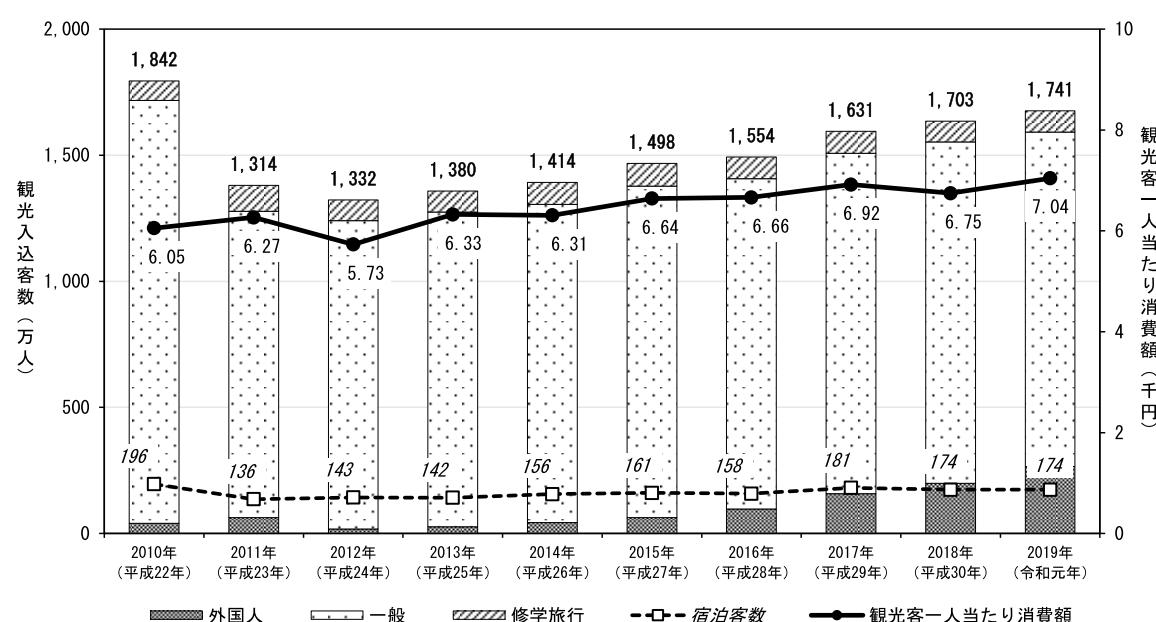
本市の観光入込客数は、「平城遷都 1300 年祭」の記念行事が行われた 2010 年（平成 22 年）にピークを迎え、翌 2011 年（平成 23 年）に減少したものの、その後は外国人観光客を中心に増加が続き、2019 年（令和元年）には約 1,741 万人となっています。

一方、滞在時間が長く、観光消費額が比較的大きい宿泊客の数や観光客一人当たり消費額は微増又は横ばい傾向にあります。

しかし、2020 年（令和 2 年）は新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外の観光客が激減しました。

※第 4 章「新型コロナウイルス感染症が与えた影響とその対応」(39 ページ～) 参照

【観光入込客数の推移】



(資料)奈良市「観光入込客数調査報告書」

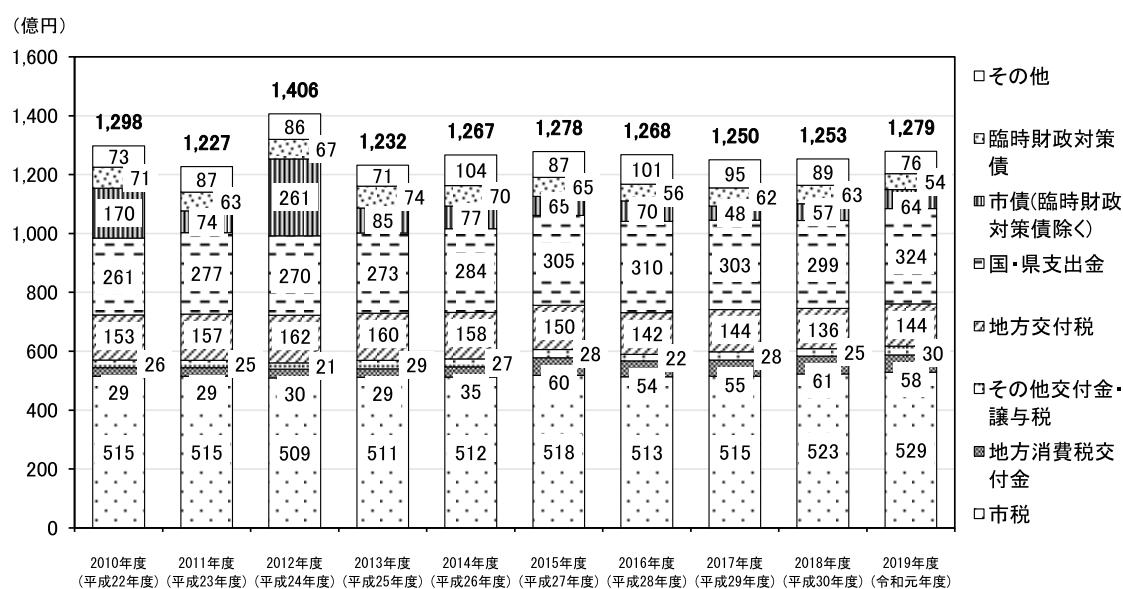
(3) 財政状況

① 島入島出の状況（市税の重要性と扶助費の増加）

本市の一般会計の島入は、総額に占める市税の割合が大きく、市税の収入額が市の財政状況に大きな影響を与える構造となっています。市税収入は減少傾向にありましたか、2013年度（平成25年度）からは増加傾向に転じています。

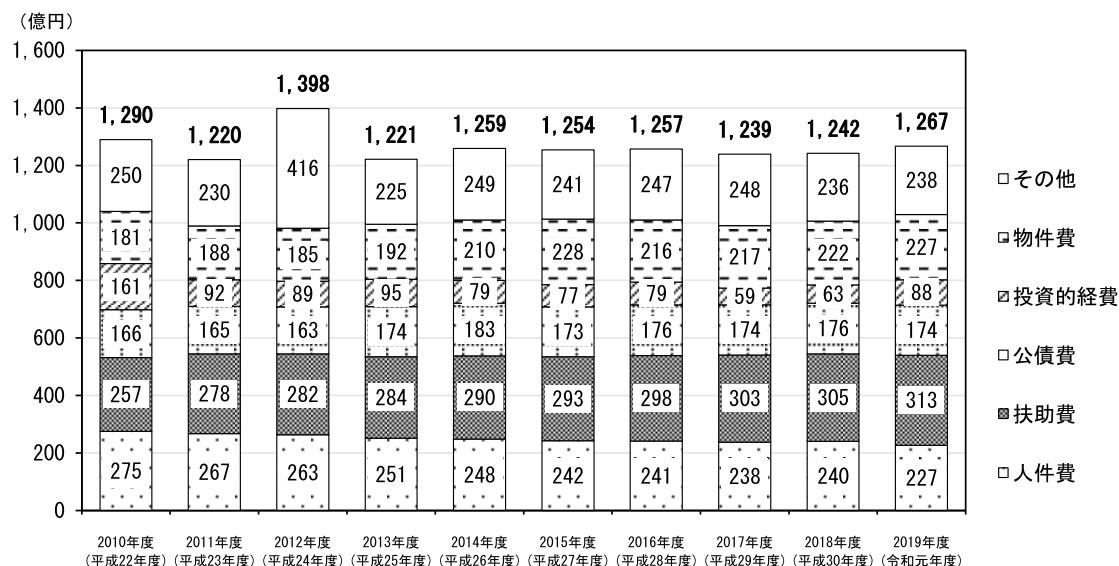
島出については、主に福祉や子育てなどの支援に要する経費である扶助費が、福祉ニーズ等の拡大により毎年増加しており、2019年度（令和元年度）は2010年度（平成22年度）の約1.2倍、金額では約56億円増加しています。

【一般会計島入決算額の推移】



（資料）奈良市資料

【一般会計島出決算額の推移】

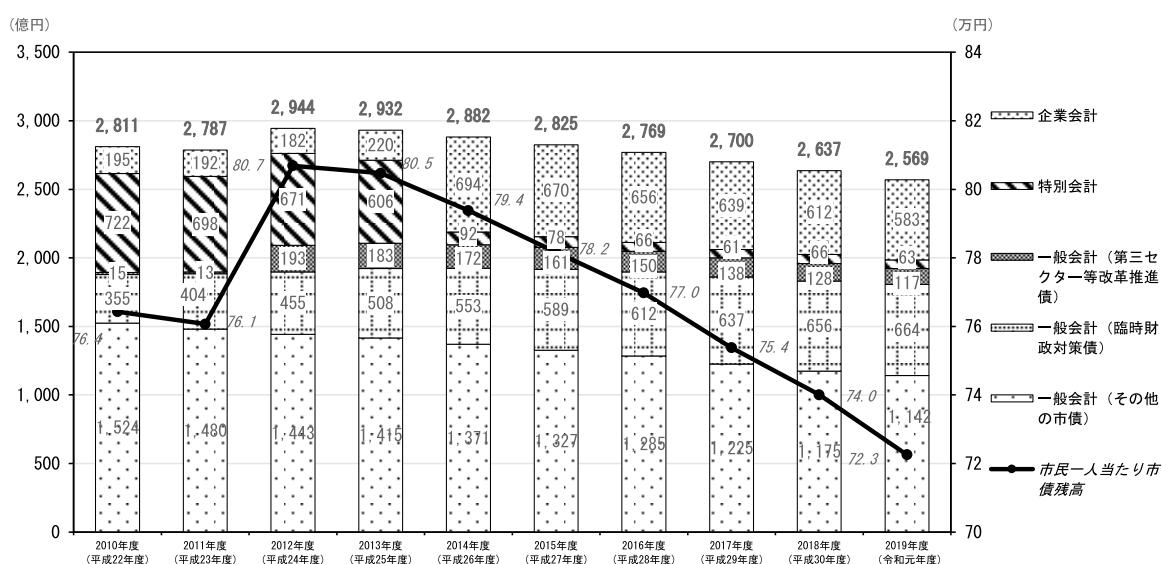


（資料）奈良市資料

② 市債残高の状況（高い水準が続く市債残高）

財政上必要な資金を外部から調達する、いわゆる借金である市債の残高は、2012年度（平成24年度）をピークとして減少しています。また、国の負担の肩代わり分である臨時財政対策債を除く、市の責任で返済する実質的な市債の残高としては、近年は大きく減少してきており、借入を抑制するなどの効果が表れてきていますが、市民一人当たりの残高は2019年度（令和元年度）末で72.3万円と、依然として高い水準にあります。

【市債残高の推移（全会計）】



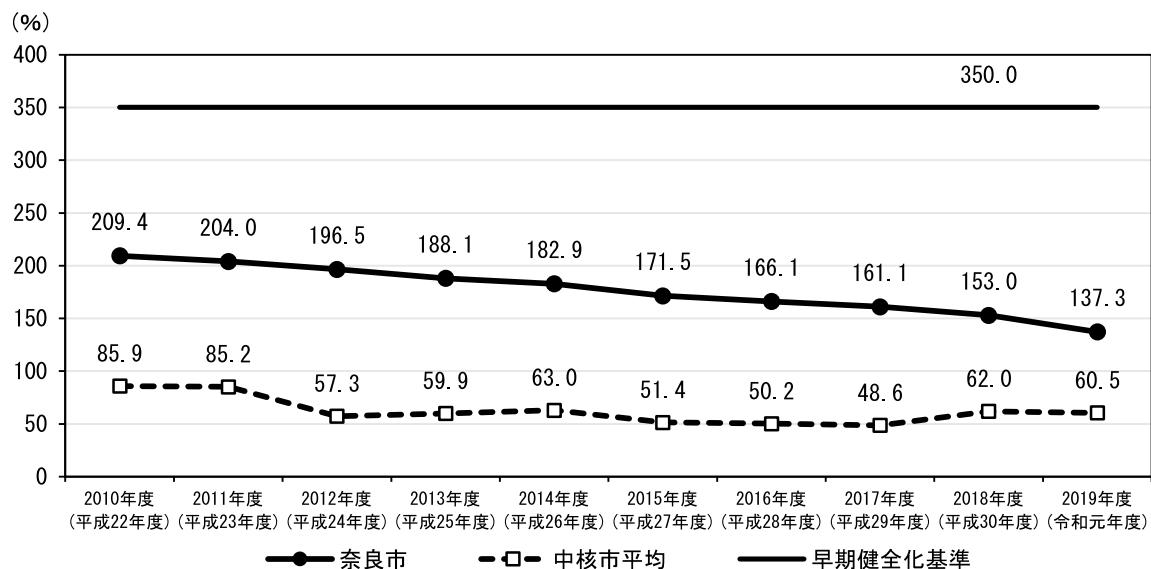
(資料) 奈良市資料

③ 財政指標の推移（厳しい財政状況）

収入に対して将来支払うべき負担の割合を示す将来負担比率は、早期健全化基準²を大きく下回っていますが、中核市の平均と比べると依然として高い状況にあります。

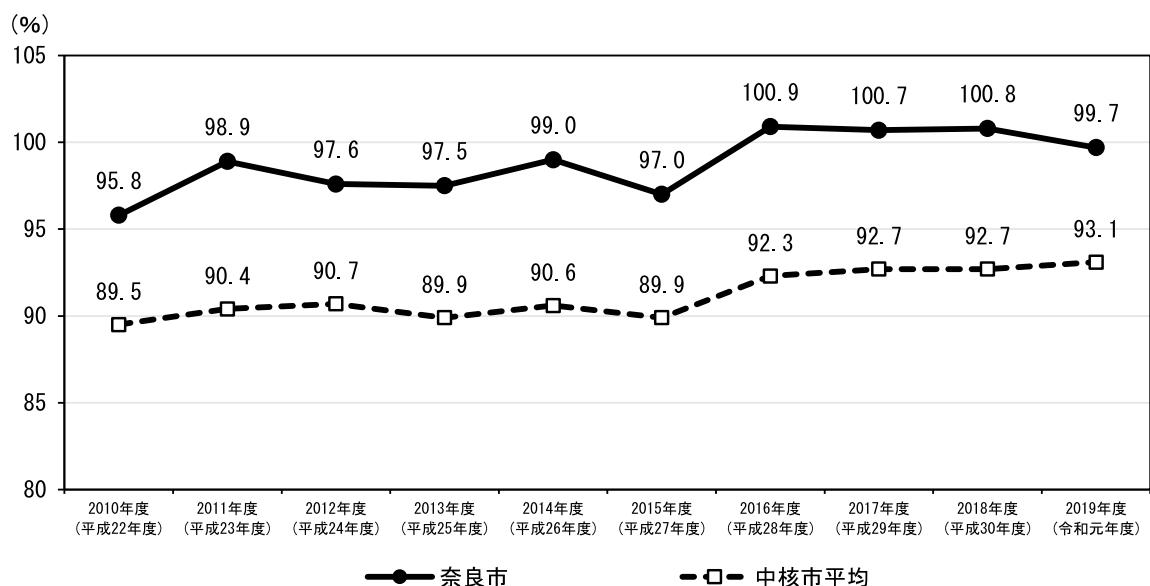
また、市税等の通常の収入で扶助費など通常必要な経費をどの程度賄えているのかを表す指標である経常収支比率も、2019年度（令和元年度）は99.7%と、中核市平均と比べて高く、財政構造の硬直化が進んでいます。

【将来負担比率の推移】



(資料) 奈良市資料

【経常収支比率の推移】



(資料) 奈良市資料

² 早期健全化基準：地方公共団体の財政の健全性に関する基準の一つで、早期健全化基準の値を超えた場合は、財政健全化団体として自主的・計画的な財政の健全化が求められる。

(4) 土地利用の状況と方向性

本市を地理・地形や都市機能などの地域特性から、以下の7つのゾーンに区分します。市域としての一体性に配慮しつつ、各ゾーンの特性を生かした、魅力ある土地利用を進めます。



①中央市街地ゾーン（小学校区：椿井、飛鳥、鼓阪、済美、佐保、大宮、大安寺、
大安寺西、済美南、鼓阪北、佐保川）

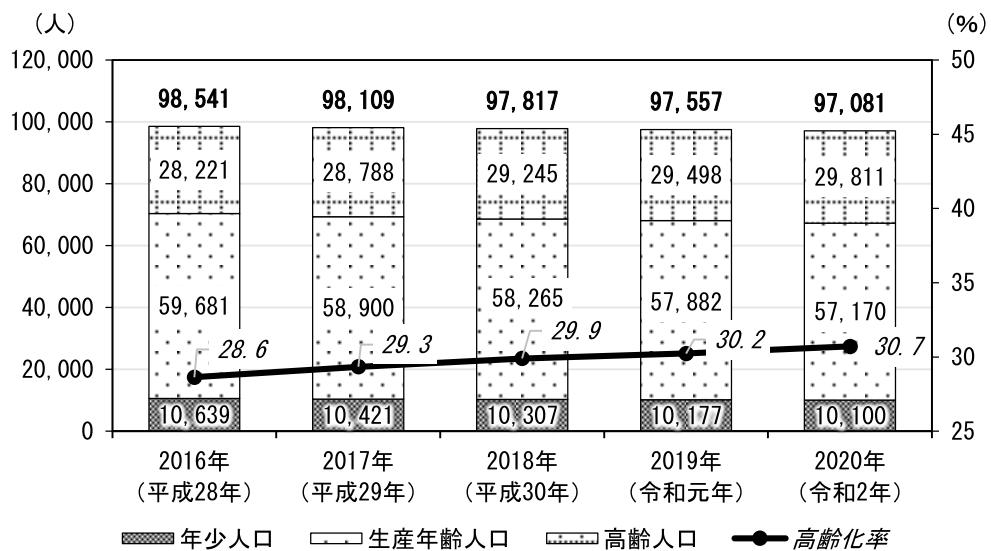
このゾーンは本市の中心部に位置し、行政サービス機能や商業・業務機能、医療・福祉機能などの都市機能が集積しています。

一方で、古い自然を今に伝える春日山原始林や都心部でありながら広大な敷地を有する名勝奈良公園、世界遺産をはじめとする歴史的な文化遺産が数多く存在するため、自然や歴史的環境に調和した市街地環境を充実させていきます。

また、景観や自然の保全に努め、「奈良町都市景観形成地区」を核として、奈良町の伝統的な町家や社寺等からなる歴史的町並みを生かした観光地としての保全整備を推進し、新しい文化の創造、観光振興と地域産業の活性化に積極的に取り組みます。

都市間をつなぐ国道やJR線、近鉄線などが通る地域であり、JR奈良駅や近鉄奈良駅周辺においては、国際文化観光都市・奈良の玄関口にふさわしい魅力ある市街地整備を進めるほか、八条・大安寺周辺地区では、京奈和自動車道（仮称）奈良インターチェンジやJR関西本線の新駅などの新たな交通結節点機能を生かした土地利用を推進します。

【中央市街地ゾーンにおける人口推移（各年10月1日現在）】



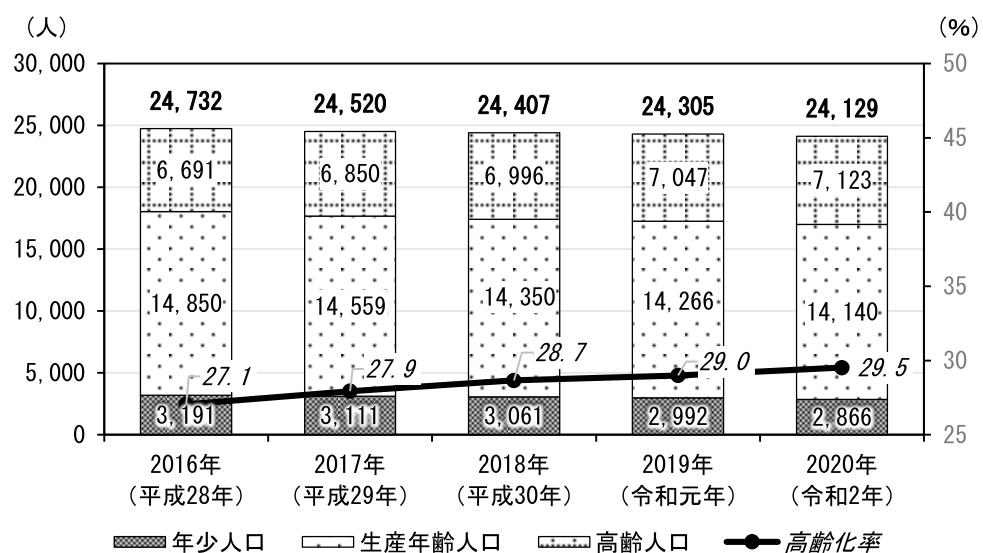
(資料) 奈良市資料

②中部ゾーン（小学校区：都跡、平城）

世界遺産「古都奈良の文化財」に登録された薬師寺、唐招提寺、平城宮跡をはじめとする歴史的な文化遺産や自然環境に恵まれたこのゾーンは、自然と歴史・文化が融合し、暮らしと共生する本市固有の風土の保存と活用を図っており、特に、国を代表する歴史・文化資産である平城宮跡の一層の保存・活用を図っています。

また、平城宮跡の復原を軸としたまちづくりを進めるため、良好な景観となっている平城山丘陵の保全・育成に努めるとともに、朱雀大路や西ノ京駅東側などの歴史的風土の維持・向上を図ります。

【中部ゾーンにおける人口推移（各年10月1日現在）】



(資料) 奈良市資料

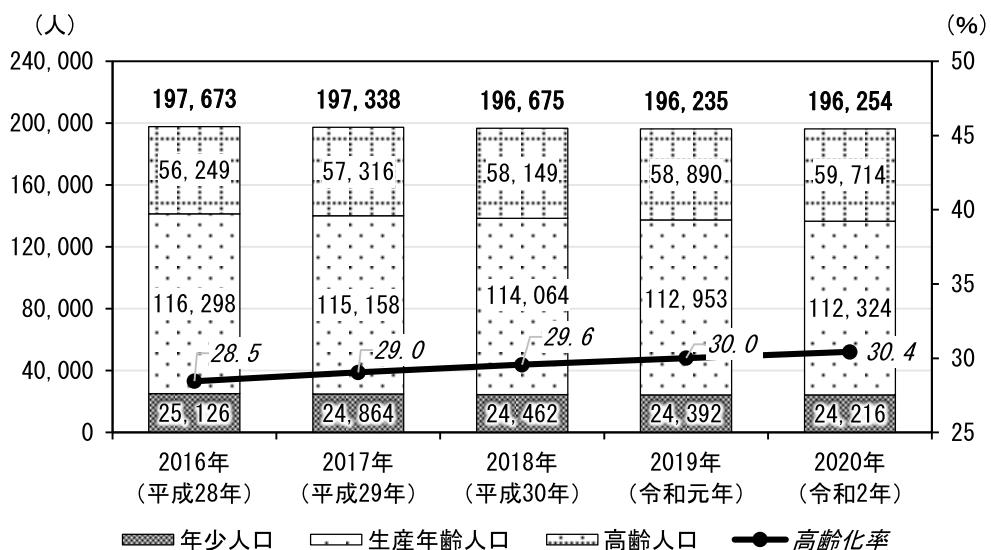
③西北部ゾーン（小学校区：伏見、富雄南、富雄北、あやめ池、鶴舞、鳥見、登美ヶ丘、六条、青和、右京、東登美ヶ丘、二名、西大寺北、富雄第三、平城西、三碓、神功、朱雀、伏見南、佐保台、左京）

昭和40年以降の大規模開発等により、大阪近郊の良好な住宅地として発展してきたこのゾーンでは、成熟した郊外住宅地として、居住環境の保全を図るとともに、公共交通機関の連携を図るため、駅周辺の環境整備を進めます。

近鉄大和西大寺駅周辺では、駅前広場の整備と併せて関連する基盤整備を推進し、利便性と快適性を兼ね備えた良好な市街地整備を進めます。

また、奈良県総合医療センターをはじめとする医療福祉機能の充実、緊急搬送に配慮した更なる交通アクセスの整備、ならやま研究パークにおける研究開発拠点の集積などを進めます。

【西北部ゾーンにおける人口推移（各年10月1日現在）】



（資料）奈良市資料

④南部ゾーン（小学校区：東市、辰市、明治、帶解（帶解、精華）³⁾

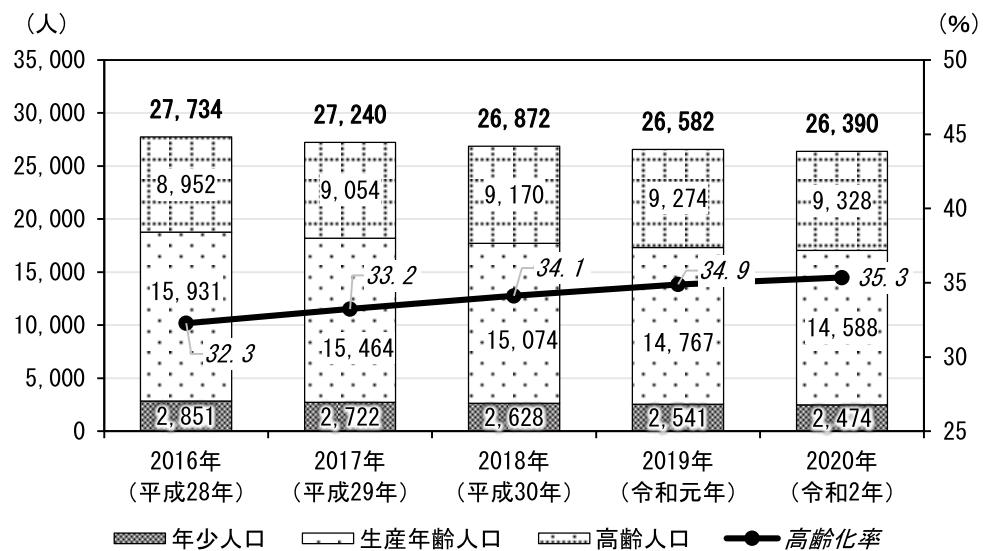
住宅地、農地、工業用地等で形成されるこのゾーンでは、用途の無秩序な混在を規制するとともに、平城京の条坊や条里制の跡などの歴史的風土や、都市近郊という立地を生かした農業の振興や集落周辺の生活環境の整備、優れた集落景観の保全と活用を進めます。

また、西九条町周辺を工業・流通業務施設等が集積・充実する拠点と位置付け、産業の活性化を図るとともに、工業適地の拡大を図ります。

さらに、大和青垣国定公園や山の辺の道、地域東部の春日山一帯といった豊富な自然環境や歴史資源の観光への活用を図ります。

³ () 内に第4次総合計画の計画期間である平成23年度～令和3年度の間に統合再編した小学校区の旧校区を記載。以下同様。

【南部ゾーンにおける人口推移（各年 10月 1日現在）】



(資料) 奈良市資料

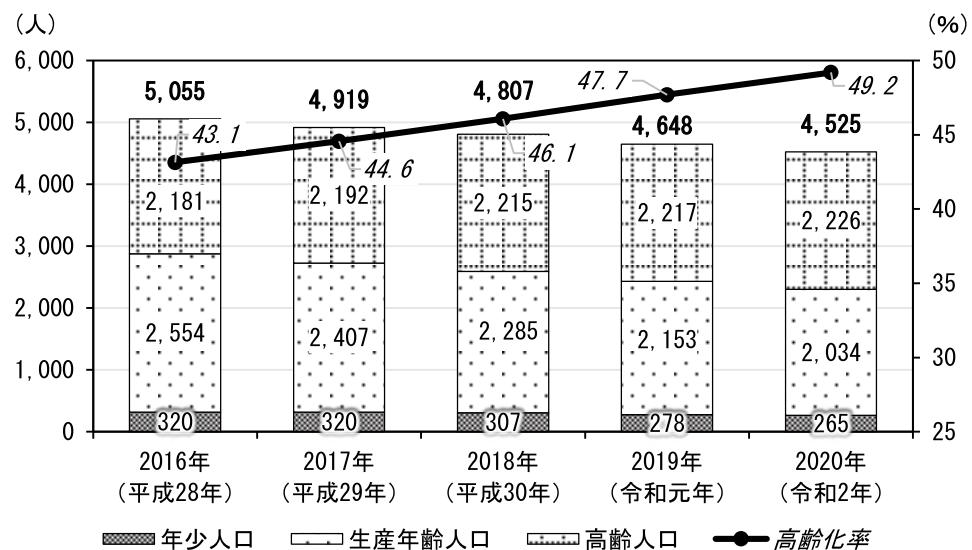
⑤東部ゾーン（小学校区：田原、柳生、興東（大柳生、相和））

このゾーンは緑や水辺など豊かな自然に恵まれ、大和青垣国定公園が指定されているほか、特産の大和茶を中心とした農業が主産業となっています。

森林地域が大部分を占め、豊かな自然と歴史に育まれたこのゾーンでは、水資源のかん養や豊かな緑の保全に努め、その特性を損なうことなく地域社会の生活環境の基盤整備を進めるとともに、良好な景観や、柳生の里や社寺等の歴史・文化遺産を生かしたレクリエーション機能の強化などを活用した地域づくりを進めています。

また、人口の減少・高齢化が進んでいることから、快適で利便性のある暮らしの実現のため、交通ネットワークの維持・充実を図っていきます。

【東部ゾーンにおける人口推移（各年 10月 1日現在）】

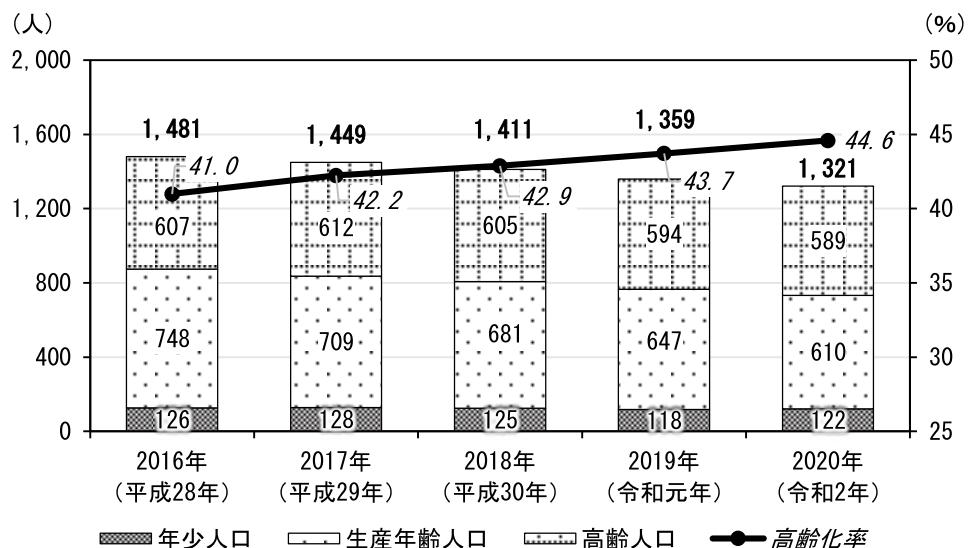


(資料) 奈良市資料

⑥月ヶ瀬ゾーン（小学校区：月ヶ瀬）

このゾーンでは、日本で最初に指定された名勝の一つである「月瀬梅林」や梅の郷月ヶ瀬温泉一帯を「梅の郷」と位置付け、梅林を保全・育成するとともに、特産の梅や大和茶を中心とした農業を主産業とし、豊かな自然環境や景観、歴史文化を保全・活用しつつ、農産物のブランド化を推進するなど、農業を核とした活力ある土地利用を推進します。

【月ヶ瀬ゾーンにおける人口推移（各年10月1日現在）】



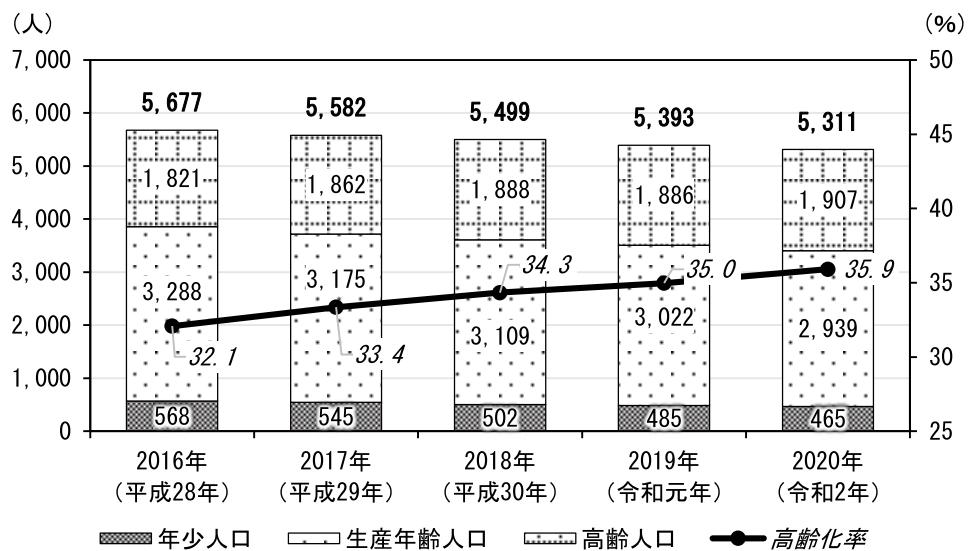
(資料) 奈良市資料

⑦都祁ゾーン（小学校区：都祁（並松、都祁、吐山、六郷））

冷涼な気候や都市近郊という立地条件を生かした農業を行うほか、ユネスコの無形文化遺産に登録された神事芸能「題目立」、天然記念物に指定されたスズランの群生地などを有しています。

阪神地区と東海地区を結ぶ名阪国道と、地域情報発信機能や温泉等の各種交流機能を備えた、人・物・情報が交流する拠点である多機能型サービスエリア針テラスを備えるこのゾーンでは、交通の利便性を生かし、インターチェンジ周辺に工場等を集積させることにより、産業の活性化を図ります。

【都祁ゾーンにおける人口推移（各年 10月 1日現在）】



(資料) 奈良市資料